

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

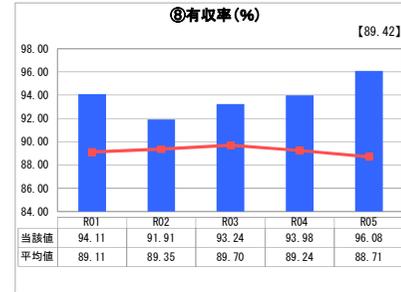
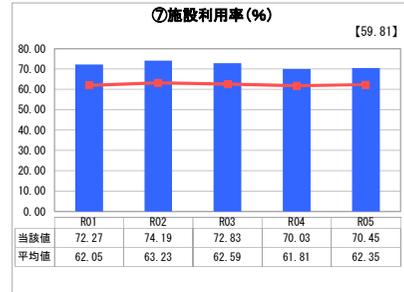
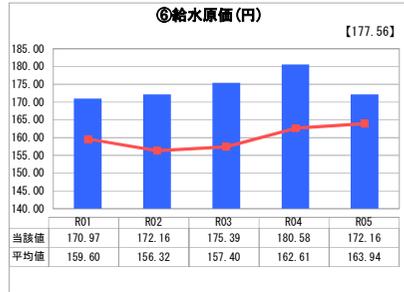
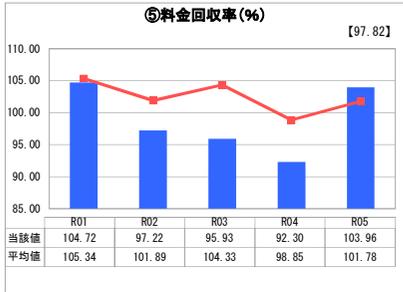
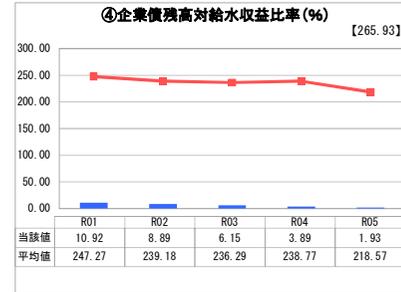
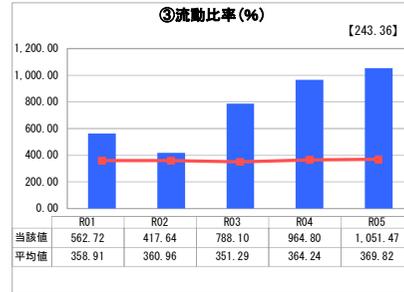
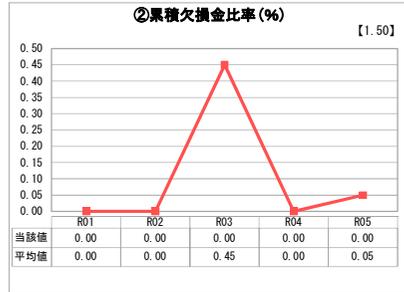
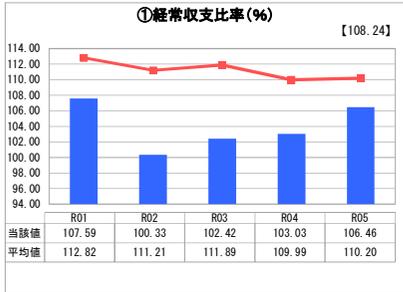
沖縄県 沖縄市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20㎡当たり家庭料金 (円)	
-	92.12	100.00	2,827	

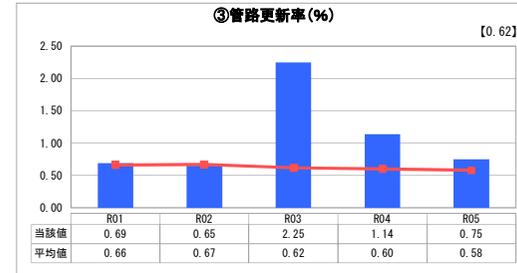
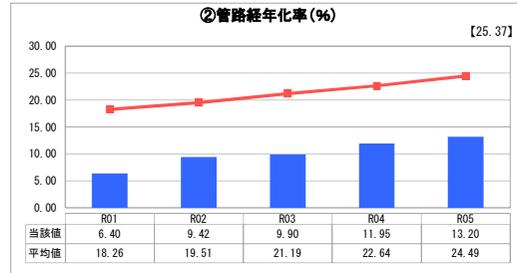
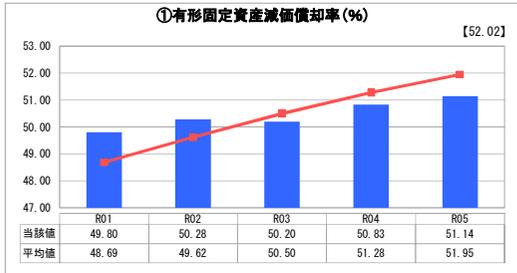
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
142,283	49.72	2,861.69
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
141,886	44.99	3,153.72

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%以上で推移している。前年度と比べ約3.4%増加している。  
 ②累積欠損比率について、本市は累積の損失がない為、0となっている。  
 ③流動比率は、1年以内に支払うべき債務に対し支払うことができる現金等があることを示すものであり、本市は100%を上回っている。前年度と比べ約87%増加している。主な理由は、令和5年度より下水道事業に貸し出し分の償還金が入ってきたことなどが、流動比率が大きくなっています。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、平成8年度以降、起債等の借入を行っていない為、償還残高は年々減少している。  
 ⑤料金回収率は、基本料金の減免を行っていないため、前年度と比べ約11.6%増加し、100%を上回るものとなっている。  
 ⑥給水原価について、水源を持たない本市は、費用に占める受水費の割合が大きい為、平均を上回っている。経常収支比率などの経営指標は安定しており、今後も収支バランスを注視しながら適切な事業運営を図っていく。  
 ⑦施設利用率は、施設の利用状況や適正規模を判断するもので、一般的には高い数値であることが望まれ、本市は平均を上回っている。  
 ⑧有収率については、平均値を上回っている。今後も漏水などの早期発見・早期対策を講じ、有収率の向上と適正かつ効率的な維持管理に努める。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、100%に近いほど、保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示している。本市は50%台を推移しているが、近年は微増してきており、今後も管理施設や施設更新計画の状況を注視しながら、安定した持続可能な事業運営を行っていく。  
 ②管路経年率は、法定耐用年数を越えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽度合を示している。数値が高いほど法定耐用年数を経過した管路を多く保有していることとなるが、本市は平均を下回っている。しかし、年々数値が高くなっており、管路の適切な更新を計画的に推進していく。  
 ③当年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を示している。本市は平均値を上回っており、今後も更新計画に基づいた管路更新を進めていく。

### 全体総括

経営の健全性・効率性については、経常収支比率などの経営指標は安定しつつ、企業債残高も減少していることから、今後も収支バランスを注視しながら適切な事業運営を図っていく。  
 また、今後も施設の経年化により、更新費用の増大も懸念されることから、日々の点検などにより管路状態を把握し、計画的に更新を行うことや現在保有する管路を徐々に延命しコスト削減及び予算の平準化を図りながら、事業運営に取り組んでいく。